

新風

平成26年6月30日
多治見市立陶都中学校
No.4

前期の充実期、6月を経て…。

多治見市立陶都中学校 校長 松山 央^{ひろし}

早いもので、もう6月から7月へ。梅雨明けの待たれる、本格的な夏となりました。

前期の充実期と言える6月には、それこそ様々な行事や取り組みがたくさんありました。3年、2年と続いた宿泊研修は、12・13日の1年生の琵琶湖研修で無事終わることが出来ました。また、保護者の皆様方のご協力を頂いた1年生環境整備作業や23日の引き取り訓練も当初の目的をしっかりと達成し、これも無事終わることができました。誠にありがとうございました。改めて、御礼申し上げます。

なお、6月は外での子ども達の活躍も目立った月でした。恒例の主張大会において、我が陶中生は、共栄・精華、そして全市と、それぞれの場所において確かな存在感を示しました。自分の主張を気後れすることなく実に堂々と述べきった10人の発表者。そして、各会場で任された仕事をきびきびと行った延べ17人のボランティアの面々。さらに、合間のアトラクションとして見事な演奏を披露した吹奏楽部。どの姿にも、成すべき事に真っ直ぐに向かう、さわやかさがあり、正に陶中生ここにあり！でした。

さて、学校の中では、中間テストを挟みながら次なる行事への取り組みが始まっています。それは、9月の体育祭です。まずは、体育祭の中核を成す応援団の編制からです。これにもちゃんとした手順があり、応援団長の立候補、生徒会による審査と決定。生徒集会での応援団長の就任挨拶と共に、その考えに共感できる団員の募集へと進んでいきます。2つの団の団長の挨拶は、中身的にもよく練られた、それこそ気合いの入ったものでした。そして、いよいよ27日放課後には、こうした手順で各クラスから集まってきた団員の面々と団長とが初顔合わせをする「団リーダー会」がありました。

会場は、第1理科室。生徒会のメンバーがこの会の司会進行を務めます。まずは、生徒会顧問の教師から団員の心構えが伝えられました。「団をリードしていく者として、叱られたり注意されたりすることは当然。それで自身がくさるくらいなら、今からでも教室を出て行きなさい」。団員としての覚悟が求められます。その後は、二つの団に分かれての自己紹介などが繰り返されました。最初から最後までピンと張り詰めた緊張感の中で進み、最終下校時刻を前にして解散となりました。



こうして、今後2カ月半ほど、間違いなくこの陶中をリードしていく生徒集団の核が出来上がりました。頼もしい限りです。学校という集団の中でこそ学ぶダイナミックな共生活動。期待は大です。

本日より3者懇談が始まります。お忙しいところ誠に恐縮ですが、どうかよろしくお願い致します。

子どもは親（家族）のするようにはする

多治見市教育委員会

「子どもは親（家族：以下同じ）の言うとおりにほしないが、親のするようにはする」

「うちの子はなかなか言うことをきかなくて」という親さんの話を聞く時がありますが、はじめの言葉にその対応へのヒントがあるように思います。

子どもに言うことをきかせようと、がんばってしまいがちですが、ちょっと見方を変えてみてもよいかもしれません。親さんが、学校行事、地域行事やPTA行事などに参加するなど、子どものために取り組んでいる姿から、また、参加されたり見聞きされたりした良い経験を子どもに伝えることから、子どもが学ぶことも多いはずですよ。